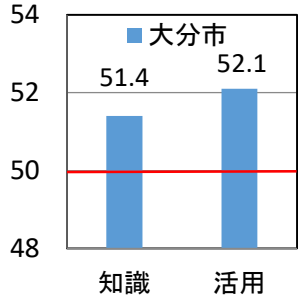
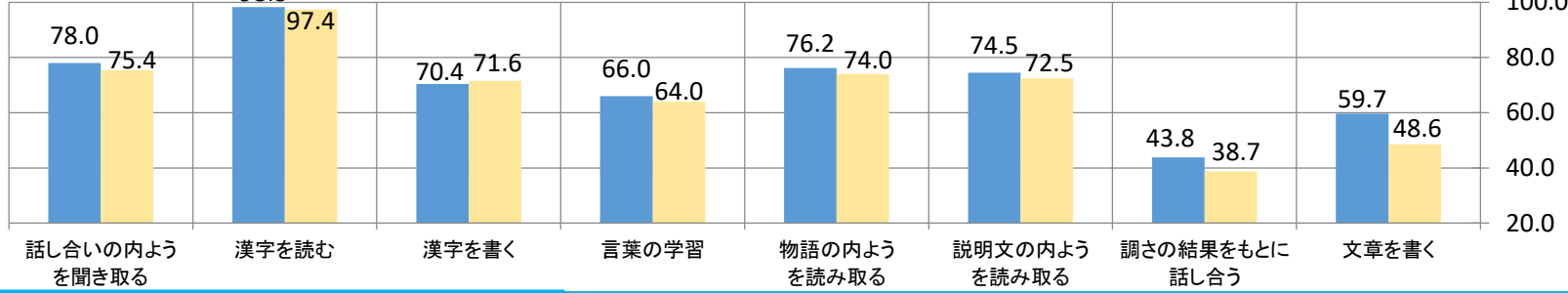


調査結果

知識活用別偏差値



問題の内容別平均正答率 (%)



分析Ⅰ

言葉の学習 本調査問題3 - (2)

連用修飾語についての理解に課題が見られる。

◆考察◆

修飾、被修飾の関係の学習では、文章内容を理解する場合だけでなく、表現する場合にも文脈の語句の役割や、語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているかを理解させることが大切である。指導に当たっては、修飾語が被修飾語にどうかかるかだけでなく、文脈に合わせて読点を適切に打つことや言葉を入れ替えることで文章が分かりやすくなることを捉えさせることが必要である。

授業アイデア例

単元名 つながり気をつけよう（光村図書4年下）

必死なのは、弟と女の子のどちらなのでしょう。



弟が必死で走っているのかなあ。

女の子が必死で追いかけているのではないかな。

必死なのは誰？

まとめ

- 読点を入れ替える
- 読点を打つ
- 分りやすい文にする
- ポイント

課題

わかりやすくするには、どうすればよいのだろうか

女の必死で走るの追いかけた。 → 追いかけた。

女の必死で追いかけた。 → 追いかけた。

必死なのは弟 → 必死なのは弟

必死なのは女の子 → 必死なのは女の子

必死なのは弟 → 必死で走る

必死なのは女の子 → 必死で追いかけた

「必死で」のような言葉を修飾語と言い、「走る」や「追いかけた」様子を詳しくしています。「必死なのは女の子だ」と言いたい時、「必死なのは弟だ」と言いたい時、どのようにすればよいでしょうか。

- ① 読点を打つ場所で区別できるとしよう。
- ② 「弟が必死」な時は、「女の子は」の後に読点を打ち、「必死で走る」と続けたいと思ったよ。
- ③ 「女の子が必死」な時は、「走る」と離すために、「必死で」の後に読点を打ったよ。
- ④ 言葉の順序を入れ替えてもいいんじゃないかなあ。

考えを深めさせるために、友達と比べ合い、自分の書いた文を見直す活動を取り入れることも効果的。

分析Ⅱ

物語の内よを読み取る 本調査問題4 - (1)

登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることに課題が見られる。

◆考察◆

登場人物の気持ちを捉える学習では、登場人物の行動に至るまでの気持ちを行動や会話、地の文などの叙述を基に捉えさせることが大切である。指導に当たっては、思考ツールを活用し、友だちの考えと自分の考えを比較しながら、物語全体を見直し、複数の叙述を基に考えさせることが必要である。

授業アイデア例

単元名 場面と場面をつなげて、考えたことを話そう（光村図書4年上）

第一次

- 単元の見直しをもつ。
- 物語を読み、不思議に思ったことを取り上げ、問いにまとめる。

第二次

- 「白いぼうし」の不思議を解決しよう。
- 松井さんの行動に関する問い（行動描写・会話文）
- 女の子の行動に関する問い（様子を表す言葉）
- 小さな小さな声に関する問い（色においを表す言葉）...本時

第三次

- 松井さんのシリーズの紹介レポートを物語の内容や表現技法の面白さに着目してまとめ、交流する。

「よかったね。」「よかったよ。」とは、どういう意味だろう。

「よかったね。」「よかったよ。」「よかったよ。」って誰が言っているんだろう？

何がよかったのかなあ。

「よかったですね。」「よかったですよ。」とは、どういう意味だろうか。

助けてもらったよ。ちよつと友だちが「よかったですね。」「よかったですね。」「よかったですね。」と違って思っています。

「よかったですね。」「よかったですよ。」とは、どういう意味だろうか。

白いちよつが、二十も三十も飛んでました。【色を表す言葉】

「おどろき」にんてい【様子を表す言葉】

【「おおい」を表す言葉】

車の中にはまだかすかに、夏みかんのにおいがこぼれています。【「おおい」を表す言葉】

「よかったですね。」「よかったですよ。」（段落をずらしている）【文章表現の特徴】

登場人物の気持ちを捉えるには、複数の叙述から行動や気持ちなどを捉えることが大切です。その際、左のような言葉に着目させることで、読みが広まり、考えを深めることにつながります。